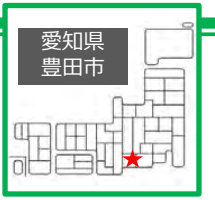
26 社会福祉法人 無門福祉会

視察受入れ：可　　報道機関受入れ：可

福祉事業者が生産、出荷調製、加工、販売まで全てを行う。平成26年から無肥料・無農薬の自然栽培へ切り替え、おいしく安全な野菜栽培、環境への配慮ができる魅力ある農業となったことで就労意欲の向上につながり、６年間で耕作面積が約７haに増加。



基本情報

- 所在地：愛知県豊田市
- 団体名：社会福祉法人　無門福祉会
- 取組パターン：福祉完結型
- 選定表彰：第４回「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」優良事例選定（東海農政局）
- 主力商品：自然栽培による農産物（米、玉ねぎ、キュウリ等）の他、菌床椎茸

取組の概要

○ ７haの農地において、米、オクラ、ニンジン、ハクサイ等約30品目の作物を無農薬・無肥料で自然栽培。また、養鶏農家で約300羽の飼育作業、菌床椎茸を年間15,000菌床栽培。障害者は、農作業全般のほか、出荷調製、加工、販売まで実施。

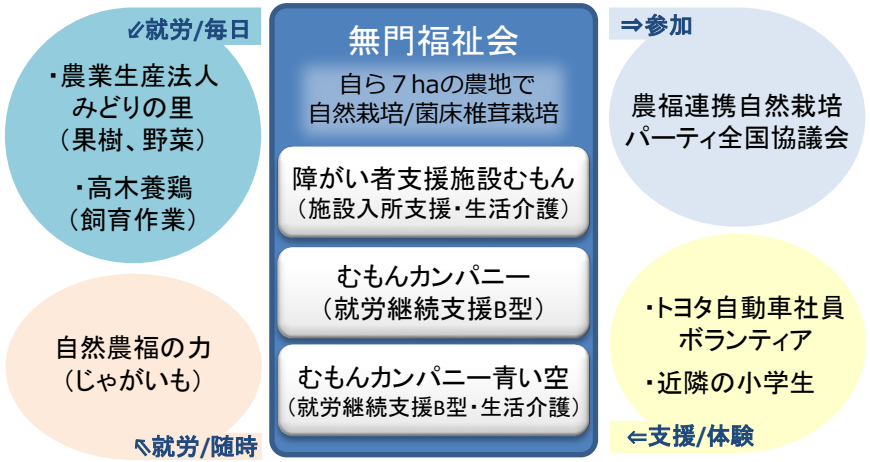
○ 開所当初は、野菜が売れず、職員・利用者ともに作業意欲が低かったが、平成26年に自然栽培に切り替えた。

○ 開所当初は、障害者には石拾いなどの単純作業を割り当てたが、飽きてしまうなどの様子が見られたため、その後、比較的難度の高い収穫や選別作業などにも従事。

イチゴの虫取り作業

サツマイモの収穫作業

体制図



取組の成果

○ 農業技術の高さが評価され、平成26年からは、市内の農業法人から農作業の請負を開始。

○ 障害者が作業に習熟することにより、イチゴポットの土詰めは、１日あたり100ポットから1,000ポットへと10倍の処理が可能になった。

○ 自然栽培へ切り替えにより、農業に手間をかけることで就労意欲の向上につながり、６年間で耕作面積が約７haに増加。また、令和元年度の売上高は、３事業所合計で約6,200万円。

所在地▶愛知県豊田市高町東山7-43
連絡先▶TEL:0565-45-7883　　FAX：0565-45-7886
E-mail:info@mumon-fukushi.net
ウェブサイト▶https://www.mumon-fukushi.net/

【取組のプロセス】

1988年～

農福連携により農業に取り組むがうまくいかない

きっかけ

農業での売上が伸び悩み、農業部門の廃止を検討する中で、障害者との自然栽培を学び、取り組みはじめる。

開所以来、農作業に取り組む

- ○ 1988年の開所以来、農作業に取り組む。
- ○ 開所当初は、野菜が売れず、職員・利用者ともに作業意欲が低かった。
- ○ 現在「むもんカンパニー」など３つの障害福祉サービス事業所を運営。

2014年～

自然栽培に切り替える

・休耕地を借り受け本格的に自然栽培を開始

・自然栽培農家との連携を開始

自然栽培に切り替え、魅力ある農業に変わりモチベーションアップ

- ○ 2014年から、無肥料・無農薬の自然栽培に切り替え、おいしく安全な野菜栽培、環境への配慮ができる魅力ある農業となり、就労意欲が向上。耕作面積と売上高の増加につながり、経営にも効果を上げる。
- ○ 農業は他の施設内作業にはない効果がある。作物の栽培には様々な作業があり、共同作業を通じ、利用者と職員との関係性もよりフラットになる。

2016年～

自然栽培による農福連携を通じて耕作放棄地の解消を目指す団体「農福連携自然栽培パーティ全国協議会」を設立

福祉事業者自らが休耕地７haを耕作

- ○ 2014年から、農作業の場として、市内の荒廃農地の再生を開始し、約７haを福祉事業者自らが耕作。障害者が、農地を維持する役割を担う。
- ○ 現在（2021）は、知的障害者を中心とした施設利用者99名が、野菜とコメの生産、加工を通年で実施。

2017年～

・農業ボランティアを企業に呼び掛け、トヨタ自動車社員ボランティアによる農作業がはじまる

・地元小学校と一緒にお米作りを始める

今後の展望

障害者が「地域につながる」ことが「地域をつなげる」ことになる

- ○ 地元の子どもたちに向けて、自然に触れながら食を楽しく学ぶ「こども体験農場」を毎月１回実施。
- ○ 自然栽培による農福連携を通じて荒廃農地の解消を目指す団体「農福連携自然栽培パーティー全国協議会」を設立。障害者による自然栽培の農業を全国に広げていく。